

幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業
成果報告書
(令和4年度～令和6年度)

機関名： 岐阜県

1. 事業実施の目的

〈事業実施の目的〉

(1) 趣旨

岐阜県及び岐阜県教育委員会では、令和4年3月に改訂した「岐阜県幼児教育アクションプラン『ぎふっこ』すこやかプラン」に基づき、「つなぐ・高める・支える」幼児教育を推進する。

〈つなぐ〉 幼児教育と小学校教育とをつなぐ取組の強化

〈高める〉 遊びを通じた指導の充実と保育内容の評価・改善、教職員の資質及び専門性の向上

〈支える〉 多様な幼児への支援の充実、家庭教育・子育て支援体制の整備

〈つなぐ〉 側面では、幼児教育施設と小学校の教職員が、両者の保育・教育について理解を深め、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた「接続期カリキュラム」を開発・実践し、学びの連続性の確保に努める。

〈高める〉 側面では、「遊びを通じた総合的な指導」や「環境構成の工夫」等、幼児教育施設と小学校生活科の学びにおいて大切な内容や、「幼児・児童理解」、「特別な支援」といった、幼児教育施設と小学校に共通する課題について理解を深め、一人一人の発達に応じた教育内容や指導方法の工夫、改善を図る。そして、運営、保育・教育の質を評価し改善を図るPDCAサイクルを構築する。

〈支える〉 側面では、「個別の教育・保育支援計画」や「個別の指導計画」を作成・活用したり、関係者の連携を強化したりする等の取組を進め、「気になる幼児・児童」、「障がいのある幼児・児童」、「外国人幼児・児童」等、多様な幼児・児童への切れ目のない支援の充実を図る。

以上を踏まえ、子供に関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、発達の段階にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指す。

〈岐阜県調査研究課題〉

幼保小の連携・協働による「つなぐ・高める・支える」架け橋プログラムの開発・実践

(2) 期間

令和4年度から3年間（公募・採択は単年度）

(3) 対象となる年齢・学年

- ・ 主に5歳児から小学校1年生の「架け橋期」とする。
- ・ 地区別テーマにより、乳幼児期、小・中学生、高校生の時期を対象とする。

(4) カリキュラム開発会議の共通テーマ

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導改善プログラムの開発・実践
～保育・教育内容の相互理解を深める効果的・効率的な研修を通して～

(5) 事業内容

① カリキュラム開発会議の設置（県及び地区）

- ・ 県及び各地区において、関係部局（幼稚園・保育所・認定こども園、小学校等）が連携

しカリキュラム開発会議を開催する。

カリキュラム開発会議	回数（原則）	時期
岐阜県	3回	<ul style="list-style-type: none"> WG1：6月上旬 WG2：各領域等で実施 進捗に合わせて、随時実施 全体会：2月中旬
地区別	2回	<ul style="list-style-type: none"> 各地区で実施

※ 各地区においては、加えて、地区別研修会を1回実施する。

② 架け橋プログラムの開発・実践（県及び地区）

- ・ 組織体制・会議設置モデルの開発・実践
- ・ 接続期カリキュラムの開発・実践
- ・ 保育・教育内容の相互理解を図る研修プログラムの開発・実践
- ・ 子供同士の園・学校交流を位置付けた指導計画の開発・実践
- ・ 認識と取組の社会的共有を目指す発信プログラムの開発・実践
- ・ 上記プログラムについて各幼児教育施設・小学校の実践を検証し、改善につなげる。等

③ 研究成果の周知（県）

- ・ 教職員向け研修資料（冊子）及び動画（DVD）「架け橋期のぎふっこの学びとくらし」を作成し、配布する。
- ・ 保護者向け啓発資料（リーフレット）及び動画（DVD）「架け橋期のぎふっこの学びとくらし」を作成し、配布する。

※ 動画制作業務を再委託する。

動画（DVD）には、幼児教育施設と小学校における実践の具体を収録する。幼児・児童や教職員等の声等が明瞭に聞こえるように撮影し、保育・教育風景等の映像に解説や音響等を挿入して効果的に編集するには、映像分野の専門的な機材や技術が必要であるため。

(6) 指定市町（3年間の指定）

岐阜地区	西濃地区	中濃地区	東濃地区	飛騨地区
北方町	神戸町	可児市	土岐市	飛騨市

- ・ 5市町において、1小学校と当該小学校に入学する子供が概ね通っている幼児教育施設を施設類型、公私立を問わず協力園・学校として指定する。
- ・ 協力園・学校に対して、当該市町教育委員会等関係部局が連携して指導に当たることができるようにする。
- ・ 地区別カリキュラム開発会議等に、岐阜県カリキュラム開発会議ワーキンググループメンバーの派遣を依頼することができる。
- ・ 会議等の開催、プログラムの開発・実践に必要な消耗品を、規定額の範囲で購入することができる。

〈園・小学校の設置数等〉

人口：191万7872人（岐阜県人口動態統計調査／令和6年4月1日現在）

園・小学校・義務教育学校の施設数：900（うち義務教育学校7）

	幼稚園			保育所		幼保連携型認定こども園	
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立
施設数	0	49	90	181	145	34	54
園児数	0	2,124	12,798	13,028	14,174	1,913	6,462

	小学校			義務教育学校			合計
	国立	公立	私立	国立	公立	私立	
施設数	0	338 うち分校1	2	1	6	0	900
児童・生徒数	0	93,068	540	921	2,118	0	147,146

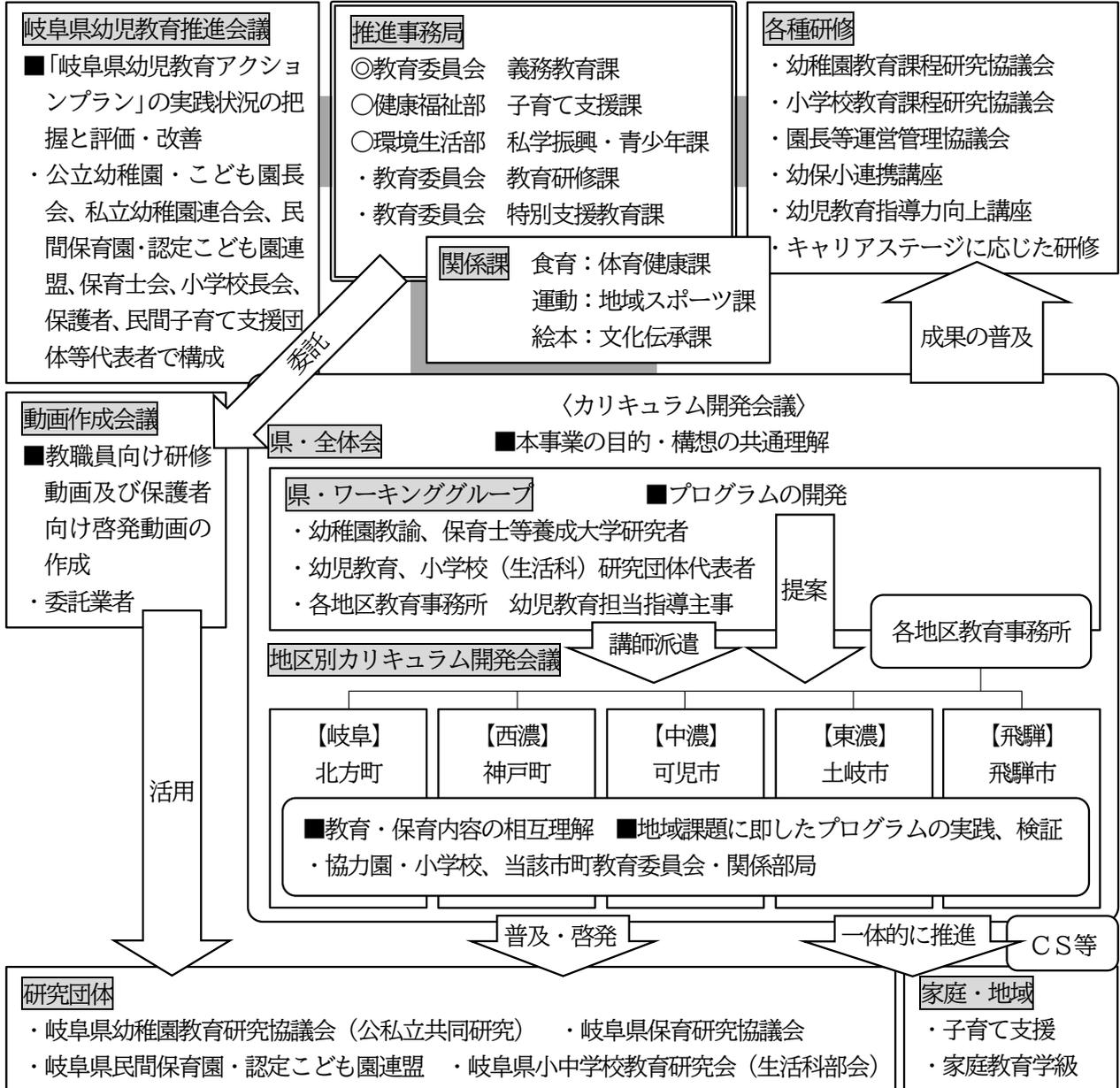
（学校基本調査／令和6年5月1日現在・岐阜県子育て支援課調査／令和6年4月1日現在）

2. 事業実施に当たっての体制づくり

2-1. 組織図・体制図

〈組織図・体制図〉

教育委員会と知事部局で推進事務局を構成し、連携して本事業を推進した。



〈会議体の説明〉

会議名	構成・役割等
岐阜県幼児教育推進会議	<ul style="list-style-type: none"> 委員12人（学識経験者、公立幼稚園・こども園長会会長、私立幼稚園連合会会長、民間保育園・認定こども園連盟会長、保育士会会長、幼保連携型認定こども園園長、小学校長会役員、公立幼稚園PTA連絡協議会会長、民間子育て支援団体代表、市町村教育委員会関係者、市町村福祉部局関係者、県発達障害者支援センター課長）、及びオブザーバー5人（子

	<p>育て支援課課長、私学振興・青少年課課長、県民生活課生涯学習企画監、特別支援教育課課長、教育研修課研修企画監)、及び事務局9人(義務教育課課長、義務教育課教育主管、他各課幼児教育担当者)により構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜県の幼児教育の方針を協議し、岐阜県幼児教育アクションプランの策定と評価、幼児教育充実のための具体的な施策の検討を担う。 ・ 岐阜県として、「幼保小の架け橋プログラム」に取り組むことを決定した。
岐阜県カリキュラム開発会議 ワーキンググループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進事務局メンバー、及び幼稚園教諭、保育士等養成大学研究者(13人)、幼児教育、小学校(生活科)研究団体代表者(4人)、各地区教育事務所幼児教育担当指導主事(5人)により構成されている。 ・ 岐阜県「幼保小の架け橋プログラム」の方針を協議し、方針と研究成果の周知を通して、取組の普及・啓発を図る。 ・ 上記役割を踏まえ、地区別カリキュラム開発会議に対して、養成大学研究者を派遣し、地区の実態に即した研修を実施したり、各地区教育事務所幼児教育担当指導主事(5人)が、継続して伴走支援を行ったりした。
地区別カリキュラム開発会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内5市町(指定5市町)において、1小学校と当該小学校に入学する子供が概ね通っている幼児教育施設を、施設類型、公私立を問わず協力園・学校として指定し、当該市町教育委員会等関係部局の指導のもと、地区別カリキュラム開発会議を設置した。 ・ 指定市町教育委員会等関係部局管理職・担当者、協力園管理職・5歳児担任、協力学校管理職・1年生担任により構成されている。 ・ 各地区の実態に即したプログラムの開発・実践、検証を行った。

〈体制づくりの進め方〉

年間を通した事業説明や担当者会等により、岐阜県カリキュラム開発会議(県/教育事務所)と地区別カリキュラム開発会議(指定市町/協力園・学校)の連携を図った。例として、令和6年度の流れを掲載する。

	県/教育事務所	指定市町/協力園・学校
4月	採択決定、文部科学省と契約締結 4.1 県カリ開発会議メンバー依頼~5.9 啓発DVDに係る契約審査会 4.16 県主事会① 4.25 教育事務所へ旅費、消耗品費令達 4.25	地区別カリ開発会議組織、日程決定 啓発DVD項目分担希望報告 4.26→決定

5月	指定市町と打合せ：今年度の見通し 5.1～ 啓発DVD制作業務委託業者入札 5.28 委託業者と打合せ：啓発DVDの構成 研修冊子・DVDデータHP掲載、配信～	県と打合せ：今年度の見通し 5.1～ 地区別カリ開発会議・研修会～ ※ 依頼：教育事務所指導主事参加、養成大 学研究者等派遣申請書作成、レジュメ・会 議録作成（電子）、消耗品等購入
6月	県カリ開発会議WG① 6.5 県カリ開発会議WG②③～11.29 ※ 啓発リーフの進捗に合わせて随時、事 務局より連絡（メール or 集合 or 訪問） 県カリ開発会議WG②リーフの構成 6.25 県幼児教育推進会議① 6.28 啓発DVDスライド画面と原稿作成～	接続期カリ実践・検証～：接続期カリによる アプローチカリ、スタートカリの位置付け や内容の見直し（ノウハウを生かした、日常 の保育・指導の工夫、改善） 啓発DVD5分間の構成検討～ 啓発DVDスライド画面と原稿作成～
7月	指定市町と打合せ：構成、撮影計画～ ※ 応相談：7月の撮影→右枠報告前倒し 県主事会② 7.5	県と打合せ：構成、撮影計画～ 撮影候補日報告（2回出勤可）7.25→決定 5分間の構成、撮影ポイント、撮影日程等報 告 8.26（8月撮影分は1週間前まで）
8月	啓発DVD撮影 8.1～11.29 啓発リーフ印刷デザイン業者調達 8.27	啓発DVD撮影 8.1～11.29 スライド画面と原稿完成→撮影後1週間以 内に提出→業者による編集、ナレ録画
9月	啓発DVDスライド画面と原稿完成 下旬	順次、編集映像と肖像権確認
10月	視察事前ヒアリング 10.17 県カリ開発会議WG③イラストデザイン 10.25 文部科学省視察（土岐市）10.31～11.1	文部科学省視察（土岐市）10.31～11.1
11月	文部科学省アンケート調査 11.1～29 啓発リーフ第一案完成→校正	文部科学省アンケート調査 11.1～29
12月	啓発リーフ原稿完成～12.25 啓発DVD試写～12.25	
1月	県幼児教育推進会議② 1.31 啓発リーフ納品 1.31 啓発DVD納品 1.31	
2月	県主事会③ 2.6 国事業成果報告会 2.10 文部科学省への一次報告～2.12 県カリ開発会議全体会：成果報告 2.14 啓発リーフ・DVD配布及びデータHP掲 載、配信 2.27～	県カリ開発会議全体会：成果報告 2.14
3月	文部科学省への二次報告～3.21 文部科学省への成果報告～3.31	
※ 運営に係る会議のみを掲載		

2-2. 協力園・協力校

〈協力園・協力校の概要〉

国公立 私立	施設類型等	園名・校名	学年又は年齢別の幼児・児童数等	接続 グループ
公立	義務教育学校	北方町立 北学園	1年生118人、2年生105人、3年生113人 4年生109人、5年生107人、6年生101人 7年生115人、8年生114人、9年生115人 特別支援学級44人、合計1,041人	A
公立	義務教育学校	北方町立 南学園	1年生61人、2年生51人、3年生44人 4年生50人、5年生47人、6年生58人 7年生50人、8年生66人、9年生45人 特別支援学級27人、合計499人	A
公立	幼保連携型 認定こども園	北方町立 こども園	0歳児2人、1歳児12人、2歳児17人 3歳児43人、4歳児38人、5歳児40人 合計152人	A
公立	保育所	北方町立 北方北保育園	0歳児0人、1歳児5人、2歳児10人 3歳児10人、4歳児9人、5歳児8人 合計42人	A
公立	保育所	北方町立 北方中保育園	0歳児2人、1歳児13人、2歳児23人 3歳児12人、4歳児18人、5歳児14人 合計82人	A
公立	保育所	北方町立 北方南保育園	0歳児3人、1歳児14人、2歳児22人 3歳児19人、4歳児13人、5歳児26人 合計97人	A
私立	幼稚園	敬愛学園 北方幼稚園	満3歳児1人、3歳児55人、4歳児60人 5歳児59人、合計175人	A
公立	小学校	神戸町立 南平野小学校	1年生18人、2年生24人、3年生22人 4年生20人、5年生20人、6年生23人 特別支援学級13人、合計140人	B
公立	幼稚園 保育所	神戸町立 南平野幼児園	0歳児0人、1歳児2人、2歳児12人 3歳児10人、4歳児11人、5歳児9人 合計44人	B
公立	小学校	可児市立 東明小学校	1年生18人、2年生19人、3年生38人 4年生32人、5年生33人、6年生36人 特別支援学級5人、合計181人	C
公立	幼稚園	可児市立 瀬田幼稚園	3歳児16人、4歳児11人、5歳児15人 合計42人	C
公立	保育所	可児市立 久々利保育園	0歳児1人、1歳児3人、2歳児7人 3歳児8人、4歳児10人、5歳児17人 合計46人	C

私立	幼稚園	トキワ学園 トキワ幼稚園	3歳児 59人、4歳児 67人、5歳児 83人 合計 209人	C
私立	保育所型 認定こども園	村の木清福会 認定こども園 ひろみ保育園 すくすく	3歳児 62人、4歳児 54人、5歳児 62人 合計 178人	C
公立	小学校	土岐市立 泉西小学校	1年生 36人、2年生 29人、3年生 45人 4年生 46人、5年生 40人、6年生 33人 特別支援学級 6人、合計 235人	D
公立	幼稚園	土岐市立 泉西小学校 附属幼稚園	3歳児 5人、4歳児 13人、5歳児 10人 合計 28人	D
公立	保育所型 認定こども園	土岐市立 久尻こども園	0歳児 0人、1歳児 10人、2歳児 11人 3歳児 18人、4歳児 26人、5歳児 21人 合計 86人	D
公立	小学校	飛騨市立 古川西小学校	1年生 31人、2年生 31人、3年生 35人 4年生 42人、5年生 39人、6年生 45人 特別支援学級 14人、合計 237人	E
私立	保育所	飛騨古川 さくら保育園	0歳児 4人、1歳児 14人、2歳児 20人 3歳児 25人、4歳児 31人、5歳児 29人 合計 123人	E

(学校基本調査/令和6年5月1日現在・岐阜県子育て支援課調査/令和6年4月1日現在)

〈協力園・協力校の指定プロセス〉

各地区の指定市町（北方町・神戸町・可児市・土岐市・飛騨市）を立候補にて決定した後は、各指定市町により、実施事業のバランス、幼児教育施設及び小学校の再編成の時期を踏まえて決定した。

〈自治体と協力園・協力校の連携・協働の取組〉

2-1. 組織図・体制図参照

〈協力園と協力校同士の連携・協働の取組〉

(1) 子供同士の園・学校交流

- ・ 「教えてもらいたい!」「挑戦したい!」と園児が小学生にお願いしたり、「いっしょに楽しみたい!」と小学生が園児を招待したりする、子供同士の自発的な交流を仕組み、実施した。
- ・ 子供同士の園・学校交流を教育課程に位置付け、年間を通して意図的、計画的に実施し、保育・教育のねらいに即して、効果的に力を付けることを目指した。例として、土岐市の「子どもの育ちと学びをつなぐ『連携のあしあと』」略表を掲載する。

(2) 幼保小合同研修・会議

- ・ 3-2. 開催実績により実施し、教職員一人一人が、保育・指導の改善や、効果的な学びの環境づくりに努めた。幼保小合同研修では、「共に育みたい幼児・児童像」に即して、「人と関わるスキル」を育む等の共通の課題について研修を行い、幼保小合同会議（地区別カリキュラム開発会議を含む）では、接続期カリキュラムの開発・実践、検証に加えて、この月に実施する子供同士の園・学校交流のもち方等について話し合った。

小：小学校／幼：幼稚園／こ：認定こども園

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
共通行事			巡回相談				就学前懇談	就学時健診			入学説明会	
子供同士の交流	小幼					Goto西小		Goto西小			Goto西小	
	幼こ		園交流①		Goto西小ミックス①		園交流②	Goto西小ミックス②			Goto西小ミックス③	
	小こ						Goto西小	Goto西小②				
教職員の交流	担任顔合わせ		1年生授業参観		5歳児保育参観						5歳児保育参観	引継ぎ会

※ 教職員向け研修動画（DVD）第4章（北方町園／土岐市学校）参照

※ 保護者向け啓発資料（リーフレット）・動画（DVD）第2章（4）子供同士の園・学校交流／（5）幼保小合同研修・会議 参照

2-3. 協力団体等

〈協力団体等の概要〉

団体名	団体等の活動概要
岐阜県幼稚園教育研究協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内公立・私立幼稚園の共同研究団体 ・ 「岐阜県幼児教育アクションプラン『ぎふっこ』すこやかプラン」の具現に資する実践的な調査研究を行う。
岐阜県保育研究協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内公立・私立保育所関係者、児童福祉施設関係者で構成 ・ 保育者の資質向上及び保育内容の充実を図る。
岐阜県民間保育園・認定こども園連盟	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内私立保育所、認定こども園で構成 ・ 保育・幼児教育内容の充実を図るとともに、地域に対する啓発活動を行う。
岐阜県小中学校教育研究会（生活科）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内小学校の生活科担当教員等で構成 ・ 生活科の学習やスタートカリキュラム等について実践的な調査研究を行う。

〈各協力団体等との連携〉

（1）各協力団体等との連携の概要

- ・ 各団体の代表者が岐阜県カリキュラム開発会議において助言を行う他、各団体が主催する会議等において、岐阜県教育委員会義務教育課 幼児教育担当者が、「幼保小の架け橋プログラム」について研修を実施した。
- ・ 特に、県内公立・私立幼稚園の共同研究団体である岐阜県幼稚園教育研究協議会に対しては、指定園として公立2園、私立2園を指定し、「岐阜県幼児教育アクションプラン『ぎふっこ』すこやかプラン」の具現に資する実践的な調査研究を支援している。（県費委託）
- ・ 指定市町（協力園・学校）を越えて、「幼保小の架け橋プログラム」を広める機会となっており、令和6年度は、これまで公立幼稚園が取り組むことの多かった「つなぐ」のテーマに私立幼稚園が取り組んだ。

（2）岐阜県幼稚園教育研究協議会：研究テーマ

令和4年度	
指定園	研究テーマ
中津川市立 中津川幼稚園	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした、園と小学校との連携の充実
総純寺学園 清流みずほ認定こども園	幼児期に育む想像力が人生の土台となる ～幼児の意志力を豊かに育てる環境と教員の役割～
聖心学園 のぞみ第2幼稚園	障害のある幼児への切れ目ない支援の充実
大垣市立 青墓幼保園	家庭や地域社会と連携した子育て支援ネットワークの確立と家庭教育を通じた乳幼児の子育て支援の充実

令和5年度	
指定園	研究テーマ
郡上市立 はちまん幼稚園	小学校との連携・接続の在り方 ～一人一人の育ちや学びをつなぐ連携内容の充実～
加納学園 こぼと第3幼稚園	子どもの実態に寄り添った教育・保育とは
天使学園 天使幼稚園	特別な配慮を必要とする幼児への切れ目ない支援の充実
多治見市立 養正小学校附属幼稚園	家庭教育及び子育て支援の充実を図るとともに、関係機関等との連携を強化して、地域における幼児教育の支援体制を構築する。 ～親と子と保育者が共に育つ幼稚園をめざして～
令和6年度	
指定園	研究テーマ
川合学園 かわい幼稚園	小学校へつなぐ「かわいワクワク研究」 ～主体性のある子どもを育てる教育の充実～
土岐市立 駄知小学校附属幼稚園	「やってみたい」「なぜだろう」「もっとやりたい」と遊ぶ子 ～進んで表現し、楽しく遊ぶ子を目指して～
本巣市立 糸貫西幼児園	特別な配慮を必要とする幼児と共に育ち合うクラスづくり ～誰もが主体的に遊び、育ち合うための環境構成と支援の在り方～
浄性寺学園 まどか幼稚園	子育て支援の充実 ～日常の個別の子育て支援の充実～
※ 指定園は、年度末の岐阜県幼稚園教育研究協議会：研究推進連絡会にて決定する。	

3. 架け橋期のカリキュラム開発会議

3-1. 会議委員等

〈会議委員一覧〉

会議の代表者氏名		山田 高秀	他57人
氏名	所属・職名	役割等	従事期間
山田 高秀	義務教育課 課長	事業責任者	4～6年度
堀場 敦子	子育て支援課 課長	事業副責任者	6年度
河村 正典	私学振興・青少年課 課長	事業副責任者	6年度
林 健司	義務教育課 教育主管	事業総括	6年度
今村 光章	東海国立大学機構 岐阜大学 教授	環境領域	4～6年度
春日 晃章	東海国立大学機構 岐阜大学 教授	健康領域	4～6年度
鈴木 祥隆	東海国立大学機構 岐阜大学 助教	特別な支援	4～6年度
安田 和夫	岐阜聖徳学園大学 教授	特別な支援	4～6年度
水谷亜由美	岐阜聖徳学園大学 専任講師	環境領域	4～6年度
安部日珠沙	岐阜聖徳学園大学短期大学部 准教授	人間関係領域	4～6年度
西垣 吉之	中部学院大学 教授	表現領域	4～6年度
小原 優作	中部学院大学短期大学部 講師	健康領域	4～6年度
杉山 章	東海学院大学 教授	特別な支援	4～6年度
辻 道代	東海学院大学短期大学部 講師	言葉領域	4～6年度
奥村 正彦	岐阜女子大学 教授	言葉領域	5～6年度
光井 恵子	大垣女子短期大学 教授	人間関係領域	4～6年度
横井 喜彦	中京学院大学短期大学部 教授	表現領域	4～6年度
鎌田 宮樹	岐阜県幼稚園教育研究協議会 会長 中津川市立中津川幼稚園 園長	〈研究団体代表〉 幼稚園、保育所、認定 こども園への普及・ 啓発	6年度
松本 郁子	岐阜県保育研究協議会 代表 豊誠会岐南さくら保育園等 総括園長		6年度
鷹橋 賢淳	岐阜県民間保育園・認定こども園連盟 会長 市橋保育園 園長		5～6年度
五藤 政志	岐阜県小中学校教育研究会生活科部会 顧問 笠松町立笠松小学校 校長		5～6年度
川瀬 和弘	北方町立北学園 校長		5～6年度
河井 信幸	北方町立こども園 園長		6年度
伊藤 佳江	北方町立北方南保育園 園長		5～6年度
棚橋 敏彦	敬愛学園北方幼稚園 園長		4～6年度
山路 康代	北方町教育委員会 学校教育課 課長		6年度
大羽 幸恵	北方町教育委員会 学校教育課 主幹		4～6年度
岸 智美	岐阜教育事務所 教育支援課 課長補佐	6年度	
原 明美	神戸町立南平野小学校 校長	〈西濃地区研究員〉	6年度

宮嶋 志乃	神戸町立南平野幼稚園 園長	地区の実態に即した プログラムの開発・ 実践、検証	4～6年度
大坪 由美	神戸町教育委員会 教育課 課長		5～6年度
清水 利恵	神戸町子ども家庭課 課長		6年度
西川 直美	神戸町子ども家庭課 教育専門官		4～6年度
小里 絵里	西濃教育事務所 教育支援課 課長補佐		6年度
吉田 尚子	可児市立東明小学校 校長	〈中濃地区研究員〉 地区の実態に即した プログラムの開発・ 実践、検証	5～6年度
土田絵里子	可児市立瀬田幼稚園 園長		6年度
古山 尚子	可児市立久々利保育園 園長		5～6年度
池田 薫	トキワ学園トキワ幼稚園 園長		4～6年度
能登 優美	村の木清福会認定こども園ひろみ保育園 すくすく 園長		4～6年度
脇田 知里	可児市教育委員会 教育研究所 指導主事		6年度
草野亜紀彦	可児市保育課 保育園幼稚園係 係長		6年度
洞口 美樹	可茂教育事務所 教育支援課 課長補佐		6年度
有賀 雅美	土岐市立泉西小学校 校長		6年度
長崎 美里	土岐市立泉西小学校附属幼稚園 園長		〈東濃地区研究員〉 地区の実態に即した プログラムの開発・ 実践、検証
山本恵里子	土岐市立久尻こども園 園長	6年度	
内海 裕樹	土岐市教育委員会 教育研究所 主任	6年度	
飯田 明子	土岐市こども家庭課 副主幹	6年度	
加納 芳訓	東濃教育事務所 教育支援課 指導主事	6年度	
渡邊 稔	飛騨市立古川西小学校 校長	5～6年度	
山下美智留	飛騨古川さくら保育園 園長	4～6年度	
都竹 由梨	飛騨市教育委員会 学校教育課 係長	〈飛騨地区研究員〉 地区の実態に即した プログラムの開発・ 実践、検証	5～6年度
清水 浩美	飛騨市子育て応援課 係長		4～6年度
田原 幹也	飛騨教育事務所 教育支援課 課長補佐		6年度
後藤 裕美	義務教育課 課長補佐		事業主務 公立幼稚園所管
大坪 奈美	子育て支援課 主任	保育所、 認定こども園所管	5～6年度
川瀬 雄貴	私学振興・青少年課 主任	私立幼稚園所管	6年度
馬場 多希	教育研修課 課長補佐	教職員研修	6年度
高橋 雄一	特別支援教育課 課長補佐	特別支援教育	5～6年度

〈会議委員の決定プロセス〉

(1) 会議委員の決定プロセス

- ・ 岐阜県幼児教育推進会議に諮り、決定した。
- ・ 県内の幼稚園教諭、保育士等養成大学から13人の研究者を招聘した。
- ・ メンバーの選定は充て職が基本となっており、その意図は、2-1. 組織図・体制図による。

- ・ 新たに設置した会議であるが、岐阜県では、「岐阜県幼児教育チーム」として、幼児教育関係課（義務教育課、子育て支援課、私学振興・青少年課、教育研修課、特別支援教育課、県民生活課）担当者に併任発令を出しており、これまでに、事業の推進や、研修・会議の運営等を通して、連携する関係が築かれていた。

(2) 自治体内における連携部局の概要（岐阜県幼児教育チーム）

部局名	部局の概要
岐阜県教育委員会 義務教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公立幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校を所管する。 ・ 教育課程の編成を支援する。
岐阜県健康福祉部 子育て支援課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公立・私立保育所、認定こども園を所管、支援する。
岐阜県環境生活部 私学振興・青少年課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私立幼稚園、学校を所管、支援する。
岐阜県教育委員会 教育研修課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員研修を実施する。
岐阜県教育委員会 特別支援教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育を担当する。
岐阜県環境生活部 県民生活課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭教育を支援する。 ・ 生涯学習、社会教育を推進する。

※ 「幼保小の架け橋プログラム」では、県民生活課は、推進事務局に参加していない。

3-2. 開催実績

〈開催実績〉

(1) 岐阜県カリキュラム開発会議

令和4年度

会議名・日時・場所	議事次第	主な検討内容・決定事項
WG① 令和4年 9月12日 13:30~15:30 岐阜県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> 「幼保小の架け橋プログラム」の趣旨 県及び地区別カリ開発会議の設置と令和4年度の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> 各領域と「特別な支援」をそれぞれ重点とした接続期カリキュラムを作成し、幼保小接続の見通しを立てる。
WG② (人間関係) 令和4年12月 3日 10:00~12:00 大垣女子短期大学	<ul style="list-style-type: none"> 「人間関係」に係る接続期カリキュラムの作成 子供の発達段階について「人間関係」の視点からの整理 	<ul style="list-style-type: none"> 保育の手立てについて、「道徳性・規範意識の芽生え」と「社会生活との関わり」を一体的にまとめて記載する。
WG② (環境) 令和4年10月13日 10:00~12:00 岐阜聖徳学園大学	<ul style="list-style-type: none"> 「環境」に係る接続期カリキュラムの作成 子供の発達段階について「環境」の視点からの整理 	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児と1年生の目指す姿として、好奇心、興味・関心をもって物事に関わり、主体的に探究する姿を位置付ける。
WG② (言葉) 令和4年11月21日 9:00~11:00 Web会議	<ul style="list-style-type: none"> 「言葉」に係る接続期カリキュラムの作成 子供の発達段階について「言葉」の視点からの整理 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生における指導の手立てについて、学習指導要領に基づいて、教科等ごとにまとめる。
WG② (特別な支援) 令和4年10月14日 17:00~19:00 岐阜聖徳学園大学	<ul style="list-style-type: none"> シートを作成するに当たって想定する子供像の確認 5領域、10の姿の重点化の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児教育施設・小学校の通常学級に在籍しながら困り感を抱えている子供を想定してシートを作成する。
WG③ (特別な支援) 令和4年11月14日 9:30~11:30 岐阜県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> 「特別な支援」に係る接続期カリキュラムの作成 5領域、10の姿の重点化と指導の手立ての整理 	<ul style="list-style-type: none"> 保育・指導の手立てを、出来つつあることを生かして自立を促したり当番活動を任せたりする方針で検討する。
全体会 令和5年 2月13日 13:30~15:30 岐阜県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県の取組 県カリ開発会議WGの成果 地区別カリ開発会議の成果 研究団体代表者助言 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は、WGと各地区の接続期カリキュラム第1案を完成させ、教職員向け研修資料及び動画にまとめる。

令和5年度

会議名・日時・場所	議事次第	主な検討内容・決定事項
WG① 令和5年 6月 5日 13:30~15:30 岐阜県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> 県及び地区別カリ開発会議の設置と令和5年度の見通し 「接続期カリキュラム開発サポートシート」の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 6枚のシートについて、「接続期カリキュラム開発サポートシート」という役割を明確にし、様式と表現を揃える。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜県として各カリキュラムの定義を明らかにする。
WG② (人間関係) 令和5年 8月31日 14:00~18:00 岐阜聖徳学園大学短期大学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「接続期カリキュラム開発サポートシート (人間関係)」の見直し ・ 解説文の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自立心」と「協同性」の両視点からバランスよくまとめる。 ・ 話し合い活動や当番活動等、学級活動の内容を位置付ける。
WG② (環境) 令和5年 8月 3日 10:00~12:00 岐阜大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「接続期カリキュラム開発サポートシート (環境)」の見直し ・ 解説文の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「環境」について、①自然、②社会環境や物、③文字、④数の4つの視点から、教科等へのつながりを説明する。
WG② (特別な支援) 令和5年 9月12日 14:00~17:00 岐阜聖徳学園大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「接続期カリキュラム開発サポートシート (特別な支援)」の見直し ・ 解説文の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「健康な心と体」「自立心」「協同性」「社会生活との関わり」「言葉による伝え合い」の視点に絞って整理する。
全体会 令和6年 2月14日 13:30~16:00 岐阜県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜県の取組 ・ 県カリ開発会議WGの成果 ・ 地区別カリ開発会議の成果 ・ 研究団体代表者助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度は、「幼児期」「架け橋期」の保育・教育の重要性と、関係する取組を紹介する発信プログラムを開発する。

令和6年度		
会議名・日時・場所	議事次第	主な検討内容・決定事項
WG① 令和6年 6月 5日 13:30~15:30 岐阜県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県及び地区別カリ開発会議の設置と令和6年度の見直し ・ 保護者向け啓発資料(リーフレット)及び動画(DVD)の構想 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「遊び」「アプローチカリ」「スタートカリ」「子供同士の園・学校交流」「幼保小合同研修・会議」を取り上げる。 ・ 視聴対象として、県内全域の5歳児保護者を想定する。
WG② 令和6年 6月25日 17:15~18:15 岐阜大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜県幼児教育推進会議への提案と報告の進め方 ・ 保護者向け啓発資料(リーフレット)の構成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちが遊ぶ様子に、教科等につながる「学び」が芽生えていることが伝わるイラストを作成する。
WG③ 令和6年10月25日 14:00~15:00 東海学院大学短期大学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者向け啓発資料(リーフレット)のイラストデザイン ・ 3つの柱、5領域、10の姿の関係性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5領域と教科等を並列に扱うことは避ける。 ・ 10の姿は、表れてくるものとして、「葉」で表す。
全体会 令和7年 2月14日 13:30~16:00 岐阜県総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜県の取組 ・ 地区別カリ開発会議の成果 ・ 意見交換及び研究団体代表者助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モデル事業終了後も、教育委員会等関係部局のリーダーシップのもと幼保小の架け橋プログラムを推進していく。

(2) 地区別カリキュラム開発会議・研修会

令和4年度

指定市町	カリキュラム開発会議		研修会
北方町	令和4年 8月18日	令和5年 1月26日	令和4年 9月13日
神戸町	令和4年 7月28日	令和5年 2月14日	令和4年11月10日
可児市	令和4年 6月20日	令和5年 1月18日	令和4年11月30日
土岐市	令和4年 7月28日	令和5年 1月16日	令和4年11月18日
飛騨市	令和4年 8月23日	令和4年 9月28日	令和5年 1月31日

令和5年度

指定市町	カリキュラム開発会議		研修会
北方町	令和5年 6月23日	令和5年11月 6日	令和6年 1月30日
神戸町	令和5年 6月27日	令和6年 2月27日	令和5年 6月30日
可児市	令和5年 6月29日	令和6年 1月30日	令和5年11月30日
土岐市	令和5年 5月31日	令和5年 8月30日	令和5年 9月 8日
飛騨市	令和5年 6月19日	令和5年 8月 8日	令和5年10月12日

令和6年度

指定市町	カリキュラム開発会議		研修会
北方町	令和6年 5月 7日	令和6年10月29日	令和7年 2月 7日
神戸町	令和6年 6月27日	令和7年 2月27日	令和6年 7月 2日
可児市	令和6年 6月 4日	令和7年 1月29日	令和6年10月29日
土岐市	令和6年 6月24日	令和6年 8月19日	令和6年 9月 2日
飛騨市	令和6年 6月 6日	令和6年 7月16日	令和6年10月18日

※ 「かやがや会議」等、議事を決めない会議を設置している地区もある。

3-3. 成果と課題

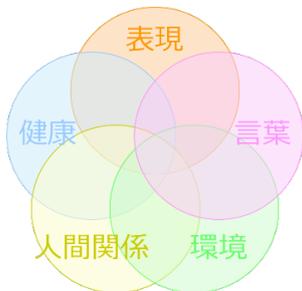
〈架け橋期のカリキュラムに関する議論〉

(1) カリキュラム開発の方針

- ・ 推進事務局において、カリキュラム開発の方針を決定し、「幼保小の架け橋プログラム」の取組を通して、各市町村（園・学校）の実態や「共に育みたい幼児・児童像」に即した、独自性のある「市町村版（校区版）接続期カリキュラム」の開発を推進することとした。
- ・ 上記の方針を踏まえ、岐阜県カリキュラム開発会議ワーキンググループでは、各市町村（園・学校）が、接続期カリキュラムを開発し、見直すに当たり、「目的と手立てが混在していないか」や「必要事項が網羅されているか」、「幼児教育の特性が担保されているか」等を確認したり、幼稚園教育要領等解説の関係箇所に戻り立ち返ったりすることができるサポートシートを作成した。
- ・ 本シートは、5領域と「特別な支援」の6枚から成り、1枚1枚の構成は「(2) 接続期カリキュラム開発サポートシートの構成」のとおりである。

(2) 接続期カリキュラム開発サポートシートの構成

資質・能力の3つの柱、5領域、10の姿の関係性を図式化して明らかにし、背景に示した。資質・能力は、遊びや生活を通した総合的な指導の中で一体的に育むよう努めることが重要である。



5歳児の「共に育みたい幼児・児童像」は、各領域のねらい（育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたもの）の3点に即して設定し、当該領域に関わって資質・能力が育まれた姿を、偏りなく網羅できるようにした。

各領域の趣旨を理解し、幼児の発達を踏まえた適切な指導が行われるようにする。

各領域等と“主に”関わりのある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示した。幼稚園教育要領等解説に例示されている項目は緑色、岐阜県の実態も踏まえ、関わらせて指導することが期待されたり、特に相乗的に育まれていくと考えられる項目は黄緑色で囲んだ。

各市町村（園・学校）においては、まず、「共に育みたい幼児・児童像」等を10の姿から分析し、資質・能力に係る視点を明らかにすることが考えられる。

接続期カリキュラム開発サポートシート

健康

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 健康な心と体
- 自己心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 自然との関わり・生命尊重
- 自然や伝統・職業や文字などへの好奇心・関心
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

育みたい姿から、人間的な学びに育みたい姿へ

資質・能力

健康及び保護 思考力、判断力、表現力

	5歳児	1年生
幼児・児童・児童像 共に育みたい姿	① 明るく伸びと行動し、充実感を味わう子 ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする子 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する子	① 目標や願いをもって伸びと行動する子 ② 運動遊びに親しみ、休み時間等に他の児童と一緒に楽しく過ごす子 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、自他の体を大切にすること
指導上の配慮 環境上の構成・配慮 関わり方等	○ 安定した情緒の下で、自分のやりたいことに向かって伸びと取り組みことができるよう、時間・空間・仲間を考慮した環境を構成し、一人一人の状況に応じて、一緒に活動したり声をかけたり見守ったりする。①② ○ 戸外の活動を楽しみ、十分に体を動かすことができるよう、アクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)の運動遊び(体を使った遊び)や音楽遊び(押し鈴・鈴、連鼓さんか鞆など、昔から親しまれてきた遊び)を紹介し実践する。①② ○ 基本的な生活行動(食事、清潔行動、整理整頓等)を身に付け、進んで取り組むことができるよう、生活の流れの中で必要性に気付いたり気持ちよさを感じたりできるように援助し、自立を促す。①③ ○ 安全に気が付いた遊びや行動ができるよう、過保護や過介入に留意しながら、危険やその回避方法についてその場で知らせたり、気付かせたりする。③ ○ 上記について情報共有し、家庭でも実行するよう保護者に促す。①②③	○ 一人一人の目標や願いを把握し、状況に応じて、声をかけたり周りの児童に働きかけたりする。②③ ○ 主体的に遊びを創り出すことができるよう、定期的に集団遊びの機会を設け、ACPを紹介したり誰もが楽しめる作戦を考えるよう促したりする。②④ ○ 基本的な生活行動(病気や怪我の手当)につながることを、学級活動や給食、日常生活の中で機会を捉えて指導し、体を大切にすることや育む。②④ ○ 時間割に慣れることができるよう、「次は」「いつまでに」を丁寧に確認し、板書や掲示で示す。②⑤ ○ 上記について情報共有し、家庭でも実行することで習慣化を図るよう保護者に促す。②③④⑤

【例】

「指導上の配慮」の最後の項目は、家庭に対して、園・学校が働きかけたり、配慮したりするとよいことを例示した。園・学校と家庭が、互いに幼児・児童の望ましい発達を促すための生活を実現していくことが大切である。

〈会議設置による成果と課題〉

(1) 成果

- ・ 岐阜県では、平成28年3月に「第2次岐阜県幼児教育アクションプラン」を策定し、「幼児教育施設と小学校の円滑な接続」、「特別支援教育の体制整備」、「子育て支援ネットワークの確立と、家庭教育を通じた乳幼児期からの子育て支援」に取り組んできた。そして、平成30年3月には、「育ちや学びがつながる・深まる岐阜県版接続期カリキュラム」を作成し、各幼児教育施設・小学校におけるカリキュラムの整備を進めてきた。これらの経緯を踏まえて、カリキュラム開発の方針を決定し、岐阜県カリキュラム開発会議ワーキンググループにおいて「接続期カリキュラム開発サポートシート」を作成した。
- ・ 本サポートシートを、教職員向け研修資料(冊子)に掲載し、配布したところ、指定市町以外の複数の市町村から追加配布の希望があり、岐阜県の実態に即した「幼保小の架け橋プログラム」入門テキストとして好評を得ている。

(2) 課題

- ・ 「総合的な指導の中で一体的に育む」ことを大前提にしている幼児教育において、便宜上とは言え、領域等(5領域と特別な支援)別にシートを作成したことや、各領域等と“主に”関わりのある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示したことは、分かりやすさと引き換えに誤解を招く恐れもあり、周知や研修に当たって配慮を要した。
- ・ 幼保小の連携を図る中でも、幼児教育の特性を担保しなければならないことや、幼児教育は「多様性」に満ちており、画一的なシステムやカリキュラムを作ろうとしてはいけないことに留意する。特に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)の捉えと「3つの柱」「5領域」「10の姿」の関係性については、年度初めに共通理解を図り、幼児教育施設と小学校の関係者が「資質・能力」ベースで語り合うことができるようにする。

4. 架け橋期のカリキュラム

4-1. 開発プロセス

指定市町（協力園・学校）が主体となって開発した。例として、土岐市の「開発の手順と解説」（抜粋）を掲載する。



※ 教職員向け研修資料（冊子）参照

4-2・3. 架け橋期のカリキュラムの概要と実践

各指定市町（協力園・学校）が開発した接続期カリキュラム等成果物とそのポイント、及び接続期カリキュラムに係る実践は次のとおりである。

指定市町	項目	成果物
岐阜地区 北方町	成果物 ※重点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「たくましい北方の子」を育てる15年間カリキュラムマップ ・ 子どもの「育ちと学び」を円滑に接続するためのカリキュラム ※ 自立心 協同性 思考力の芽生え
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0歳児から9年生までの学びのつながりをまとめ、架け橋期の位置付けを明らかにした。 ・ 体験と表現が往還する活動のイメージが共有できるよう、事例の「学びや遊びのプロセス」を記載した。
	実践例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育学校では、園で付けた力を発揮しながら学校生活に適應できるよう、教師が「園ではどのようにやっていたの?」と尋ねたり、スモールステップを設定したりした。やるべきことが終わった後も自分で考えて行動できる子が増えてきた。
西濃地区 神戸町	成果物 ※重点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接続期カリキュラム～「運動遊び」を軸として～ ※ 健康な心と体
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 変化させながら続く幼児期の遊びの特性を矢印で記載した。
	実践例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校では、縦割り班遊びの内容やルールは、子供達同士で話し合っ決めてるようにした。学年や個人の得手不得手を配慮したり、より楽しくなるように工夫したりする中で、上級生に対しても安心して相談できる子が増えてきた。
中濃地区 可児市	成果物 ※重点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可児市「笑顔の“もと”」接続期カリキュラム ※ 協同性
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各園と小学校の特色を生かし、それぞれが「協同性」を育むことを意識して取り組む活動を記載した。
	実践例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園では、個々にじっくり味わってきた遊びが、友達との製作遊びへと発展し、たくさんの作品やゲームができてくると、みんなでお店屋さんを開きたいという声が上がったことから、遊び込むことが「協同性」を育てていくことを改めて確認できた。
東濃地区 土岐市	成果物 ※重点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの育ちと学びをつなぐ「接続期マップ」～「言葉による伝え合い」を重点として～ ・ 子どもの育ちと学びをつなぐ「連携のあしあと」 ・ 開発の手順と解説 ※ 言葉による伝え合い
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業や日常を通して目指す「第1学年修了時までには育てほしい姿」記載し、指導の方向性を明らかにした。
	実践例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園では、「先生」「ペア」「グループ」「全体」と伝え合いの環境を意識するようにした。進んで自分の考えを伝えるだけでな

		く、友達の考えを聞いて、共感したり提案したりできる子が増えてきた。
飛騨地区 飛騨市	成果物 ※重点	・ 飛騨市版アプローチ・スタートカリキュラム ※ 運動能力 仲間と関わる力 あきらめない心
	ポイント	・ 活動を通して育む「仲間と関わる力」の系統性を記載し、5歳児後期と小学校入学期を一つの段階として位置付けた。
	実践例	・ 保育所では、鉄棒で技に失敗したり、竹馬で転んだりしても、再挑戦する子が増えたと気づき、できる・できないだけではない、子供たちの内に育まれている力に着目することの大切さを改めて認識できた。
※ 教職員向け研修資料（冊子）参照		

5. 自治体の支援

5-1. 研修の実施

〈実施した研修の概要〉

令和4年度				
実施日	研修名	形式	対象者	研修内容（抜粋）
令和4年 10月19日	幼児教育指導力 向上講座：大垣 市立北幼保園	集合	幼稚園教諭 保育士 保育教諭 教育委員会等幼 稚園教育担当者	<ul style="list-style-type: none"> 講義の中で、小学校の一場面を取り上げて、園で育み、小学校で発揮されている力について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに捉える演習を実施した。
令和4年 10月11日	幼児教育指導力 向上講座：いづ み第2幼稚園			
令和4年 10月26日	幼保小連携講座	集合	実際に幼児の保育・教育、児童の教育に携わっている教員 幼保小連携を進める立場の学年主任、教務主任 教育課程を編成する立場の教員	<ul style="list-style-type: none"> 講師として、本巣市立真正幼稚園園長 杉原和 氏を迎え、「幼保小の連携を考える」と題して講話いただいた。 公私立、施設類型、学校段階を越えたグループを編成し、共通の視点から「幼児教育」と「小学校教育」のつながりを考える演習を実施した。
令和5年度				
実施日	研修名	形式	対象者	研修内容（抜粋）
令和5年 5月22日	幼稚園等新規採用教員研修①	集合	新規採用教員	<ul style="list-style-type: none"> 講義の中で、「資質・能力」について、資料「生きる力 学びのその先へ」をもとに、15年間を通して育む視点から説明した。
令和5年 6月 8日	中堅教諭等資質 向上研修	集合	中堅教諭等	<ul style="list-style-type: none"> 講義の中で、指導の評価による指導計画の改善に関わって、アプローチカリキュラムの考え方と小学校学習指導要領の内容を扱った。
令和5年 10月11日	幼児教育指導力 向上講座：本巣 市立真正幼稚園	集合	幼稚園教諭 保育士 保育教諭 教育委員会等幼 稚園教育担当者	<ul style="list-style-type: none"> 講義の中で、小学校の一場面を取り上げて、園で育み、小学校で発揮されている力について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに捉える演習を実施した。
令和5年 10月31日	幼児教育指導力 向上講座：まど か幼稚園			

令和5年 10月18日	幼保小連携講座	集合	実際に幼児の保育・教育、児童の教育に携わっている教員 幼保小連携を進める立場の学年主任、教務主任 教育課程を編成する立場の教員	<ul style="list-style-type: none"> 講師として、北方町立こども園園長 吉村雅子 氏を迎え、「幼保小の教育・保育に架け橋を」と題して講話いただいた。 公私立、施設類型、学校段階を越えたグループを編成し、共通の視点から「幼児教育」と「小学校教育」のつながりを考える演習を実施した。
----------------	---------	----	---	---

令和6年度

実施日	研修名	形式	対象者	研修内容(抜粋)
令和6年 5月30日	幼稚園等新規採用教員研修①	集合	新規採用教員	<ul style="list-style-type: none"> 講義の中で、「資質・能力」について、資料「生きる力 学びのその先へ」をもとに、15年間を通して育む視点から説明した。
令和6年 6月 3日	中堅教諭等資質向上研修	集合	中堅教諭等	<ul style="list-style-type: none"> 講義の中で、指導の評価による指導計画の改善に関わって、アプローチカリキュラムの考え方と小学校学習指導要領の内容を扱った。
令和6年 10月23日	幼児教育指導力向上講座：瑞穂市立ほづみ幼稚園	集合	幼稚園教諭 保育士 保育教諭 教育委員会等幼稚園教育担当者	<ul style="list-style-type: none"> 講義の中で、小学校の一場面を取り上げて、園で育み、小学校で発揮されている力について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに捉える演習を実施した。
令和6年 10月10日	幼児教育指導力向上講座：こぼと第3幼稚園			
令和6年 10月16日	幼保小連携講座	集合	実際に幼児の保育・教育、児童の教育に携わっている教員 幼保小連携を進める立場の学年主任、教務主任 教育課程を編成する立場の教員	<ul style="list-style-type: none"> 講師として、小児科医師 石川道子 氏を迎え、「発達凸凹キッズがぐんと成長するGoodなサポートを園から小学校につなごう」と題して講話いただいた。 公私立、施設類型、学校段階を越えたグループを編成し、共通の視点から「幼児教育」と「小学校教育」のつながりを考える演習を実施した。

※ 全ての研修講座に、公私立、施設類型を問わず参加できる。

〈研修の成果と課題〉

特に、幼保小連携講座について成果と課題を記述する。

(1) 成果

- ・ 公私立の幼稚園、保育所、認定こども園、並びに小学校、義務教育学校、特別支援学校から参加があり、公私立、施設類型、学校段階を越えて交流することで、受講者は、幼児教育の多様性や重要性を感じる事ができた。
- ・ 共通の視点から「幼児教育」と「小学校教育」のつながりを考える演習では、まず、5歳児の活動（遊び）を1つ決め、当該活動から得られる「経験」を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を手掛かりに分析した。そして、重点とする10の姿をもとに、共通の視点として「共に育みたい幼児・児童像」（ねらい）を描き、つながる1年生の活動（学習）を考えた。どの受講者も、最初は、「言葉による伝え合い」は「国語」、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」は「算数」「国語」というように、分かりやすいつながりを述べるが多かったが、幼稚園教育要領等解説や1年生の教科書を読みながら、グループの仲間と検討する中で、『健康な心と体』や『自立心』は、新しい学習内容に好奇心を抱いたり、分かるまで粘り強く取り組もうとするということだから、どの教科にもつながるのではないか。」等、考えが深まっていった。演習を通して、「幼児教育」が「小学校教育」の基礎となっていることを確認できた。
- ・ 演習の後、教職員向け研修資料（冊子）の「接続期カリキュラム開発サポートシート」をみた受講者から、「小学校の活動と聞いて『授業』にとらわれていたが、『みんなでより良い学級・学校生活をつくる』という点でも、『幼児教育』で付けた力が発揮されていると分かった。」という感想が寄せられた。教職員向け研修資料（冊子）・動画（DVD）の効果的な活用についても、更に検討したい。

(2) 課題

- ・ 県内における「幼保小の架け橋プログラム」の進捗状況には、市町村間の差があり、全ての受講者の理解度や経験値に合わせた研修を提供することが難しい。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を知らない小学校教員もいれば、生活科の授業研究会に参加したことがある保育者もあり、受講者の反応をみながら、補足説明をしたり、演習の難易度を上げたりしている。5歳児の「活動のねらい」や1年生の「教科の単元目標」の設定の仕方を考えるところまで進んだグループでは、教育課程の構成原理や指導方法等の様々な違いにも目を向ける事ができた。岐阜県教育委員会が主催する研修では、この段階を「ねらい」として設定したい。
- ・ どの受講者も、研修後は、子供たちのために、幼保小連携について更に学び、校区内の幼児教育施設と小学校の関係性を深めたいという思いを強くする。しかし、年度末の還元度アンケートから、自身の保育・指導を振り返ったり、分掌の実施に生かしたりすることはできても、全園・全校体制の動きをつくることはできていないことが明らかになった。
- ・ 上述の状況から、市町村教育委員会等主催の研修と「ねらい」や対象者を調整し、併用することで、組織としての動きを創り出すことができるような研修体制を築く必要がある。

5-2. 教材等の作成

〈作成した教材等の概要〉

(1) 保育・教育内容の相互理解を図る研修プログラム

- ・ 教職員向け研修資料（冊子）「架け橋期のぎふっこの学びとくらし」を制作し配布した。
- ・ 教職員向け研修動画（DVD）「架け橋期のぎふっこの学びとくらし」を制作し配布した。

章	概要
第1章 (10分)	岐阜県教育委員会による、架け橋期や架け橋期の重要性、及び岐阜県の推進体制に係る説明（10分×1コマ） ・ 幼保小の架け橋プログラム ・ 岐阜県幼児教育アクションプラン
第2章 (35分)	岐阜県カリキュラム開発会議WG：養成大学研究者による接続期カリキュラム開発サポートシートの紹介と解説（5分×7コマ） ・ シート作成の経緯と構成 ・ 各シート（5領域+特別な支援）
第3章 (25分)	指定5市町による接続期カリキュラム等の紹介と説明（5分×5コマ） ・ 北方町、神戸町、可児市、土岐市、飛騨市の成果物
第4章 (50分)	協力園・学校による「共に育みたい幼児・児童像」に係る実践の具体の紹介と説明（5分×10コマ） ・ 北方町園・学校、神戸町園・学校、可児市園・学校、土岐市園・学校、飛騨市園・学校の実践

※ 教職員向け研修動画（DVD）参照

(2) 認識と取組の社会的共有を目指す発信プログラム

- ・ 保護者向け啓発資料（リーフレット）「架け橋期のぎふっこの学びとくらし」を制作し配布した。
- ・ 保護者向け啓発動画（DVD）「架け橋期のぎふっこの学びとくらし」を制作し配布した。

章	概要
第1章 (10分)	岐阜県教育委員会による、「幼児期」「架け橋期」の保育・教育、及び架け橋期のキーワード（遊び/アプローチカリキュラム/スタートカリキュラム/子供同士の園・学校交流/幼保小合同研修・会議）に係る取組の説明（10分×1コマ） ・ 「幼児期」の教育 ・ 「架け橋期」の教育
第2章 (50分)	指定5市町（協力園・学校）による、架け橋期のキーワードに係る取組、及び教職員の意図と子供の学びや成長の紹介（5分×10コマ） (1) 遊び 神戸町 ・ 遊びを通して必要な経験を積み重ねていくことができるよう、教育的な意図をもって、思わず関わりたくなるような環境を構成し、再構成し続ける営みの紹介 (2) アプローチカリキュラム 北方町、飛騨市 ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼児期の学びが、

- 小学校の生活や学習で生かされてつながるよう見通した取組の紹介
- (3) スタートカリキュラム 可児市、飛騨市
- ・ 幼児期における遊びを通した総合的な学びを踏まえて、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことができるよう配慮した、次のような取組の紹介
 - ✓ 生活科を中心とした合科的・関連的な指導
 - ✓ 弾力的な時間割の設定
 - ✓ 幼児期の学びを踏まえた指導の工夫
- (4) 子供同士の園・学校交流 北方町、神戸町、土岐市
- ・ 「招待したい」「教えてほしい」等の思いや願いを生かし、その実現を通して、自信や安心感、豊かな人間関係を育む交流活動の紹介
- (5) 幼保小合同研修・会議 可児市、土岐市
- ・ 授業参観や保育参観・体験、研究会等を通して研修したことを、保育・指導の改善、環境の構成に生かす、先生の頑張りの紹介

※ 保護者向け啓発動画（DVD）参照

〈教材等の成果と課題〉

(1) 成果

- ・ 「幼児期」「架け橋期」の保育・教育について、保護者や地域住民に広く知ってもらいたいという指定市町（協力園・学校）の関係者の願いを受けて、令和6年度に保護者向け啓発資料（リーフレット）及び動画（DVD）を制作した。構想を練る中で、「接続期カリキュラム」により、「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」の位置付けや内容を見直したり、園・学校交流や幼保小合同研修・会議の在り方を検討したりして、日常の保育・指導の工夫、改善につなげることができた。
- ・ 令和5年度に制作した教職員向け研修資料（冊子）及び動画（DVD）を配布し、各種研修で活用した。研修資料を参考にしながら、指定市町（協力園・学校）以外でも、「市町村版（校区版）接続期カリキュラム」の開発・実践が進んでいる。また、動画の視聴により、子供の姿を通して、効果的に、保育・教育内容の相互理解を図ることができた。幼稚園のお店屋さんごっこの様子を視聴した小学校教員からは、「実際にやってみて困ったことを話し合い、友達のアイデアを取り入れて工夫したり、折り合いを付けて我慢したりする様子に驚いた。」「何とかしたいという必要感に迫られて話し合うからこそ、自分の考えが正しく伝わる方法を考えて、『これが』とその場所に走って行って指し示したり、『だって…』と理由を述べたりするのだと分かった。」という感想が寄せられた。小学校における「型にはめた語り方の指導」や「単位時間における活動と話し合いのバランス」について見直すきっかけとなった。

(2) 課題

- ・ 県内の各市町村（園・学校）や受講者の実態に即して、「幼保小の架け橋プログラム」を推進できるよう、資料及び動画を活用した研修の体系化を図るとともに、各種研修において、テキストとして活用できる指導者を育成する。

6. 本事業に取り組んだことによる成果

6-1. 自治体における成果

〈自治体における成果〉

(1) 自治体における成果

- ・ 推進事務局において、岐阜県幼児教育アクションプランの基本方針を踏まえ、1年目は〈つなぐ〉(接続期カリキュラムの開発に着手する)、2年目は〈高める〉(教職員向け研修資料・動画を制作する)、3年目は〈支える〉(保護者向け啓発資料・動画を制作する)を重点に取り組んでいく見通しを立て、計画通りに実施することができた。

(2) フェーズ (令和7年3月31日現在)

事項	フェーズ	取組や状況
開発会議	3	フェーズ3プロセス ・ カリキュラムの実施の支援策があるが、実施状況の把握・検証が県内全域に至っていない。
架け橋期のカリキュラム (協力園・学校)	3	フェーズ3プロセス ・ カリキュラム、共通の視点を実践に生かしている。 ・ 子供同士の自発的な交流が生まれるよう、幼保小の先生が協働して工夫している。 ・ 実践・検証が、まだ継続的な取組になっておらず、PDCAサイクルが確立していない。
実施に必要なこと (協力園・学校)	4	フェーズ3クリア ・ 接続する幼児教育施設・小学校の実践について、実感を伴った理解のもと、話し合いができています。 ・ 「カリキュラム開発会議」の定期開催に向けて、既存の市町組織への位置付けや年間行事との同時開催を進めている。
実施に必要なこと (自治体)	3	フェーズ3プロセス ・ 幼児教育施設・小学校と関係機関・団体との連携のコーディネートについてニーズや課題に応じて行おうとしている。 ・ 幼保小の連携推進のため、経験年数、設置者、施設類型、学校種に配慮した対応をしている。 ・ 教職員向け研修資料(冊子)・動画(DVD)、保護者向け啓発資料(リーフレット)・動画(DVD)をテキストとして用いたり、指定市町(協力園・学校)の関係者を講師として招いたりして、体系的に研修を実施しようとしている。

※ プロセスの中でも、取り掛かかっていない項目がある。

6-2. 園・校における成果

〈先生方の指導と子供の姿の変容〉

指定市町	実践例
岐阜地区 北方町	<p>保育所では、「接続期カリキュラム」の開発を受けて「アプローチカリキュラム」を見直し、子供たちが、自分達で話し合っ決めて活動をし、段階的に位置付けるようにした。秋のお店屋さんでは、子供たちが、「何が必要か」や「役割分担をどうするか」等、これまでの経験を生かしてアイデアを出し合い、実現に向けて、粘り強く取り組んだ。</p> <p>※ 保護者向け啓発動画 (DVD) 第2章 (2) アプローチカリキュラム 参照</p>
西濃地区 神戸町	<p>幼稚園では、小学校入学後の様子を見る機会が増えたことで、幼児期に必要な経験として「子供同士でやり遂げる」ことへの認識が高まった。保育者は、個人の困っている状況をクラスの仲間にも伝え、共感したり、一緒に解決策を考えたりする場面を、積極的につくるようにした。子供たち自身の力で、遊びを発展させたり、製作を継続したりする姿が増え、たくましさを感じられるようになってきた。</p> <p>※ 保護者向け啓発動画 (DVD) 第2章 (1) 遊び 参照</p>
中濃地区 可見市	<p>小学校では、「接続期カリキュラム」の開発を受けて「スタートカリキュラム」を見直した。子供たちの生活リズムや集中する時間、意欲の高まりを大切に、「弾力的な時間割」を設定し、「生活科を中心とした学習」や「各教科等の学習」の位置付けを吟味した。どの時間においても、子供たちが生き生きと主体的に学ぶ姿が見られた。</p> <p>※ 保護者向け啓発動画 (DVD) 第2章 (3) スタートカリキュラム 参照</p>
東濃地区 土岐市	<p>小学校区では、連携の計画に基づいて、年度当初から継続的に、子供同士の園・学校交流を進めてきた。幼保小合同会議で、交流のもち方、目的、5歳児と1年生の意識を共有し、交流までの見通しを明らかにしたことで、保育のねらいや各教科等のねらいに即して、子供たちに効果的に力を付けることができている。</p> <p>※ 保護者向け啓発動画 (DVD) 第2章 (4) 子供同士の園・学校交流 / (5) 幼保小合同研修・会議 参照</p>
飛騨地区 飛騨市	<p>小学校では、「スタートカリキュラム」以降も、幼児期から続く学びが段階的に高まっていくよう、指導計画を整理したり学習環境を見直したりした。「材料コーナー」「ヒントコーナー」「お試しコーナー」等のスペースを設置した授業では、子供たちが、個々のペースでじっくり考えたり試したり交流したりすることができた。</p> <p>※ 保護者向け啓発動画 (DVD) 第2章 (3) スタートカリキュラム 参照</p>

7. 今後の課題と展望

(1) ビジョンの明確化

- ・ 令和6年3月策定の「第4次岐阜県教育振興基本計画」に、幼保小の架け橋プログラムの推進を位置付け、幼保小合同研修の実施状況を指標として設定した。
- ・ 令和7年度には、「第4次岐阜県教育振興基本計画」及び幼保小の架け橋プログラムの成果を踏まえて、「第3次岐阜県幼児教育アクションプラン」の策定作業を行う。

施策I-6 人格形成の基礎を培う幼児教育の充実

〈取組の方向性〉

- 「岐阜県幼児教育アクションプラン」の基本方針である『つなぐ・高める・支える』幼児教育の推進に向けて、「幼児教育推進会議」において施策の検証と見直しを続けます。
- 幼児教育に携わる関係各課からなる「岐阜県幼児教育チーム」により、施策を共有し、施設類型、公私立を問わず一貫した指導、支援を行います。
- 「幼保小の架け橋プログラム」を推進し、「接続期カリキュラム」や「保育・教育内容の相互理解を図る研修プログラム」、「組織体制・会議設置モデル」等の成果の共有を図ります。
- 幼少期から、保護者が子育ての悩みを共有し、家庭教育について学び合う機会の拡大を図ります。

〈課題〉

- ✓ 幼児教育と小学校教育とをつなぐ取組の強化
- ✓ 遊びを通じた指導の充実と保育内容の評価・改善サイクルの構築
- ✓ 多様な幼児への支援の充実、家庭教育・子育て支援体制の整備

〈施策実施指標〉

番	施策	指標	現況値 ^{R5年度}	目標値 ^{R10年度}
6	人格形成の基礎を培う幼児教育の充実	幼児教育施設の教職員、保育士等との合同研修を実施した小学校の割合	60.1%	90%

(2) 体制整備

① 岐阜県カリキュラム開発会議

- ・ 岐阜県幼児教育推進会議内に位置付ける。
- ・ 令和7年度岐阜県幼児教育推進会議は、第3次岐阜県幼児教育アクションプラン策定委員会を兼ね、4回開催する。令和7年度の開催予定は次のとおりである。

会議	期日	場所
第1回	令和7年 6月16日	岐阜県総合教育センター
第2回	令和7年 9月29日	岐阜県総合教育センター
第3回	令和7年11月20日	岐阜県総合教育センター
第4回	令和8年 1月29日	岐阜県総合教育センター

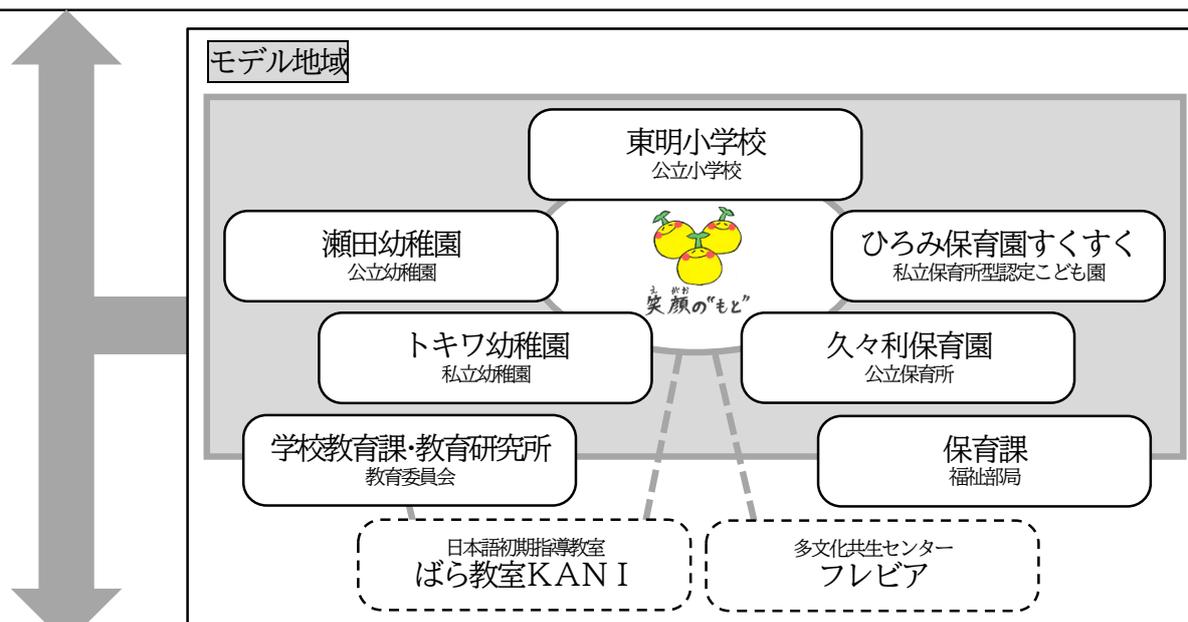
② 地区別カリキュラム開発会議

- ・ 定期開催に向けて、既存の市町組織への位置付けや年間行事との同時開催を進める。例として、可見市の組織図を掲載する。

可見市幼保小連携推進会議

■ ①園での幼児期にふさわしい活動から小学校低学年の学習への円滑な移行、②園と小学校の交流の機会の充実、③就学する園児の実態に即した学級づくり、④保護者への情報共有と理解促進 — の視点からの、園と小学校の連携の強化、改善の推進

- ・ 教育委員、学校教育課、こども健康部、校長会、教頭会、教務主任会、保育協会、幼稚園教育協議会、特別支援に関する機関、外国籍幼児・児童の保育・教育支援機関等の代表者で構成



各小学校区連携協議会

※網掛け数字はモデル地域

〈小学校〉

1	今渡南小学校
2	土田小学校
3	帷子小学校
4	春里小学校
5	旭小学校
6	東明小学校
7	広見小学校
8	南帷子小学校
9	桜ヶ丘小学校
10	今渡北小学校
11	兼山小学校

〈幼稚園・保育所〉

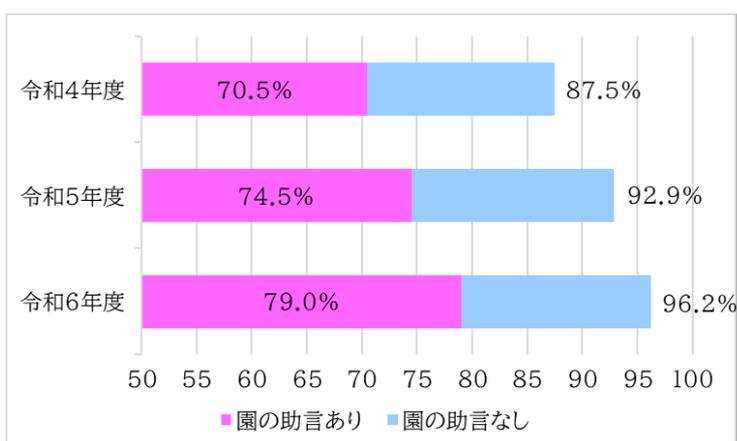
1	今渡幼稚園	11	すみれ楽園
2	かたびら幼稚園	12	土田保育園
3	かたびら第二幼稚園	13	ひろみ保育園すくすく
4	かわい幼稚園	14	めぐみ保育園
5	桜ヶ丘幼稚園	15	桜ヶ丘保育園
6	瀬田幼稚園	16	兼山保育園
7	大栄幼稚園	17	可見さくら保育園
8	トキワ幼稚園	18	はぐみの森保育園
9	ひめ幼稚園	19	可見市国際交流協会
10	久々利保育園	20	にのこのこ保育園

※ 可見市では、1つの幼児教育施設から複数の小学校へ、複数の幼児教育施設から1つの小学校へという、校区を越えた就学の傾向がある。

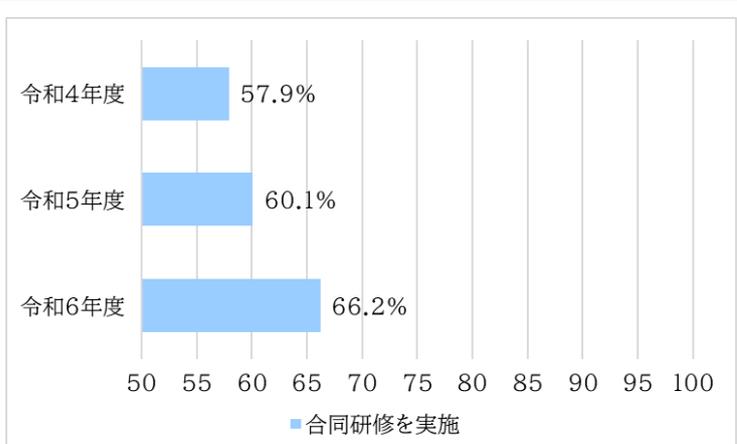
(3) 実態の推移の把握

- ・ 次の3項目について、実態の推移を把握し、指導・助言に生かす。

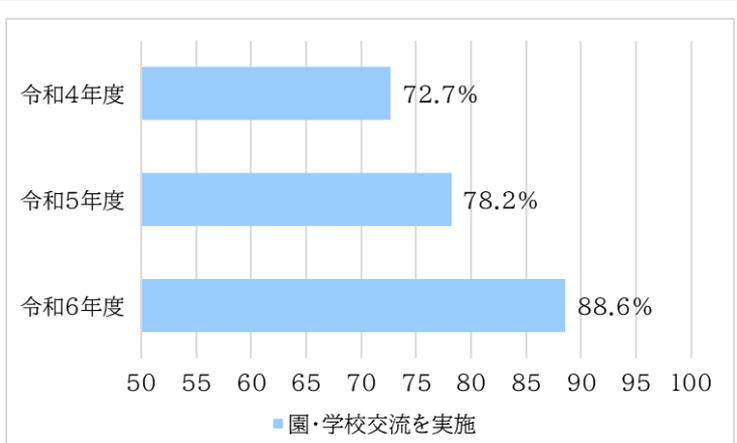
□ 接続期カリキュラム・スタートカリキュラム等を編成し、架け橋期の教育課程を工夫している小学校・義務教育学校の割合



□ 幼保小合同研修を実施し、保育・教育内容の相互理解を図っている小学校・義務教育学校の割合



□ 子供同士の園・学校交流を実施し、自信や安心感、豊かな人間関係を育てている小学校・義務教育学校の割合



(4) 指導・助言の実施

① 各種研修の充実

- ・ 幼稚園教育課程研究協議会、小学校教育課程研究協議会、園長等運営管理協議会、幼保小連携講座、幼児教育指導力向上講座、キャリアステージに応じた研修において、「架け橋期の重要性と指導の見通し」を扱い、教職員向け研修資料（冊子）・動画（DVD）、保護者向け啓発資料（リーフレット）・動画（DVD）を活用しながら、幼保小の架け橋プログラムの開発・実践の具体を描くことができるよう研修する。例として、園長等運営管理協

議会と幼保小連携講座の計画を掲載する。

研修名（抜粋）	期日	講師等
園長等運営管理協議会	令和7年 8月25日	岐阜聖徳学園大学短期大学部 教授 徳広 圭子 氏 テーマ：架け橋期の保育・教育の重要性と幼保小の 架け橋プログラムの可能性
幼保小連携講座	令和7年 10月30日	土岐市教育委員会教育研究所 主任 内海 裕樹 氏 テーマ：土岐市の「幼保小の架け橋プログラム」の 取組

② 協力団体との連携

- 岐阜県幼稚園教育研究協議会、岐阜県保育研究協議会、岐阜県民間保育園・認定こども園連盟、岐阜県小中学校教育研究会生活科部会が主催する会議等において、義務教育課幼児教育担当者が幼保小の架け橋プログラムについて研修を実施し、3年間の成果の普及・啓発に努める。
- 特に、県内公立・私立幼稚園の共同研究団体である岐阜県幼稚園教育研究協議会に対しては、指定園として公立2園、私立2園を指定し、「岐阜県幼児教育アクションプラン『ぎふっこ』すこやかプラン」の具現に資する実践的な調査研究を、継続して支援する。令和7年度指定園は次のとおりである。

指定園	施設類型等	研究テーマ
多治見市立昭和小学校附属幼稚園	公立幼稚園	つなぐ
篠田学園かぐや第3幼稚園	私立幼稚園	つなぐ
本巣市立本巣幼児園	公立幼稚園・保育所併設園	高める
立木学園大野クローバー幼稚園	私立幼稚園型認定こども園	支える

※ 具体的な研究テーマは令和7年度に決定する。

8. まとめ

以下に述べる3点は、当初から、「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」等でも謳われていたが、3年間のモデル事業を終えて、その重要性が腑に落ち、改めて納得できたことである。

(1) 0歳から18歳の学びの連続性に配慮する

- ・ 岐阜県では、まだ、「幼保小の架け橋プログラム」を、義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間の取組としか捉えられておらず、0歳から18歳の学びの連続性に配慮する視点が弱い。指定市町(協力園・学校)の関係者からも、管理職や5歳児担任、1年生担任は、必要感と充実感をもって取り組んでいるが、他の教職員にとっては、「いつか役に立つかもしれないこと」という認識が拭えず、全園・全校体制で取り組むことが難しいとの指摘があった。例えば、「幼保小の円滑な接続のための取組」に加えて、「遊びと学びの探究的な視点からの見直し」という視点をもつことで、幼児教育施設においても小学校においても、全教職員にとって必然のある課題になると考える。

(2) 地域(地区・校区)の文化に育てる

- ・ 令和6年度、土岐市では、人事異動により、教育委員会等関係部局担当者、協力園園長、協力学校校長が全て入れ替わった。前年度に作成した「連携のあしあと」を手掛かりに、担任顔合わせを行い、子供同士の園・学校交流に向けて準備を始めると、1年生から「今年は招待状を作りたい。」と提案があった。子供たちが、交流活動を楽しみにしており、教職員の異動に左右されない「校区の文化」になりつつあると感じた。
- ・ 飛騨市では、協力園・学校が合同で保育・授業参観・懇談会を実施した。子供と運動遊びに取り組んだ保護者からは、「『遊び』なのにハードで驚いた。『遊び』のイメージが変わった。」「子供たちは、『遊び』を通して運動能力や社会性を身に付けていくことが分かった。」という感想が寄せられた。我が子が通う園・学校の保育・教育に対する信頼感が高まっていると感じた。
- ・ 「幼保小の架け橋プログラム」を地域ぐるみの取組(地域の文化)に育てるため、コミュニティ・スクールとしての取組や地域学校協働活動に位置付けていくことも考えられる。

(3) 行政がリーダーシップを発揮する

- ・ 令和6年度 第2回岐阜県幼児教育推進会議では、「幼保小の架け橋プログラム」の3年間の取組を振り返り、各委員から次のような意見が述べられた。成果が認められた一方で、次のフェーズに進むための方向性が示されたと感じている。

委員： 可児市のスタートカリキュラムの様子を視聴し、素晴らしいと感じた。朝の活動に、園でも行っている読み聞かせや昔遊びを取り入れたり、手人形を使って授業を進めたりといった工夫がみられる。子供たちの興味、関心を引き出すことで、おのずと聞くことができるようにする指導を行っている。～

委員： 教育委員会による積極的な推進もあり、「つなぐ」に係る小学校教員の意識が高まっている。1年生担任が、特別な支援を必要とする児童の指導について、園に相談に来るこ

とがある。また、自園の校区では、園と小学校の教職員が一緒に生活科の授業をつくる取組がある。これまでの授業は展開が形式的であったが、振り返りの在り方を見直し、活動時間を十分に確保するようになった。～

委員： いじめの認知件数の資料が提示されたが、「幼保小の架け橋プログラム」により、この問題の解決にアプローチできるという根拠はあるのか。

委員： スタートカリキュラムを各学校で編成しているが、見直しに当たって、園からの助言を受けることが難しく、実態や取組が十分に共有されていない。今年度、生活科の県大会が開催され、幼稚園、保育所等へも案内を送付した。県の方針や取組を知ってもらい、地域や園に持ち帰ってもらう意図もあった。地域によって実情が異なることを踏まえて、中心になって推進する行政の力が必要。

委員： 自園の町では、毎年、校区の持ち回りで園小連携発表会を開催している。自園の校区は1校1園で連携を進めやすい。園も小学校も若手の教職員が多いため、お互いに保育・教育を磨き、質を「高める」必要がある。園は遊びの環境を整えることが得意。生活科の「秋のおもちゃで遊ぼう」等の授業づくりで、保育のノウハウを伝えることができる。

委員： 可見市のスタートカリキュラムの様子を視聴し、保護者として、園でやっていることを小学校でもやってもらえることを、とても良いと感じた。小学校に上がった途端に難しい内容になり、うまく出来ず自信を無くす子もいる。小さな町でも、複数の園から入学してくる。小学校の先生には、いろいろな園の取組を知ってほしい。

委員： 「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会最終報告」に、「一部の幼児教育施設の取組においては、未だ共通理解が不十分な点や解釈に差異があり、3要領・指針をよりよく実現していくための対応が必要となっている。～」とあるが、具体的にどういうことか。対応として、令和7年度の研修に反映されているか。

委員： 「つなぐ」取組を推進するに当たって、幼児教育センターの設置がどうしても必要だと考える。47都道府県の内38道府県で設置が進んでおり、岐阜県は取り残されている状況。「幼児教育・保育課」という「課」の設置でもよい。また、各園・学校においては、連携窓口（担当者）を明らかにし、園長・校長だけでなく、1年生学年主任・担任、5歳児主任・担任のレベルで子供の姿を通して連携できるとよい。

※ 一部抜粋

- ・ 「幼保小の架け橋プログラム」は、幼児教育施設や小学校の自発的な意欲に委ねていては、推進することが叶わない。公私立、施設類型、学校段階が異なる園・学校が、共に取り組むということは、会議を開催するために日程を調整するだけでも大変な労力を要し、指定市町（協力園・学校）も、決してスムーズに連携が進んだわけではなかった。教育委員会等関係部局のリーダーシップのもと、子供たちのために必要な事業として推進していく。
- ・ 本事業の推進に当たって、神戸町は、子ども家庭課に事務局を置いて、研究を進めた。また、北方町は、令和6年度から、幼保連携型認定こども園と保育所の所管を教育委員会に移し、保育・教育担当部局の一元化を進めた。全ての子供が質の高い教育を受けられるよう、幼児教育の質的向上とともに、小学校への円滑な接続を図り、架け橋期の教育の充実を図っていくためには、これまでの「役割」にとらわれず、行政組織の在り方を見直す必要がある。